

事前計画書

1 届出により病床を設置する理由

岩手県では、これまで公的病院への医療依存度が高く、医療の主要な機能を公的病院が担って参りました。特に、へきち、救急、小児、高度・専門医療については、医師不足や患者数の減少などにより病院の経営環境は厳しさを増しておりますが、地域に必要な医療として今後とも公的病院にその役割を担って頂く必要があるものと存じます。そのためには、地域内において、各医療機関が役割分担を進め、地域の実情に応じた地域包括システムの主旨に沿って医療提供を行っていく必要があるものと考えます。

盛岡市においても、高度・専門医療等の地域住民の生命にかかわる医療を担う中核的な病院と初期救急やプライマリケア、回復期機能などを地域住民に提供する病院・診療所の役割分担を図っていく必要があります。特に冬場は、交通弱者は移動も困難となるため自宅近くに入院できた方が良いものと考えます。

当院においては、そのような地域ニーズを踏まえ、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最後まで続けられるよう「急変時の入院患者の受入・在宅復帰機能」および「当該診療所内で看取りを行う機能」を整えることで、盛岡市における地域包括ケアシステムの枠組みの中で役割を果たして参る所存です。

またかねてより、自院患者の状態が悪化した際、自院のかかりつけ患者を看れず、地域の急性期病院に送ることは、患者および地域の急性期病院の負担を大きくすることになるうえ、自分が暮らす地域で安心して治療を受けられるという地域包括ケアシステムの理念からも外れるため、当院で病床を保有し、地域のニーズに応えて参りたいという想いがございました。

また、在宅や介護施設などで終末期を迎えられる患者で、急性期の治療を行う必要はないものの、本人やご家族が入院を希望されているケース（レスパイト対応）、また、在宅や介護施設などで褥瘡の治療が必要な患者については、急性期病院への入院もままならない状況であることから、有床診療所という形でそういったニーズに応えて参りたいと考えています。

私は従前県立胆沢病院に勤務していたおり、全身状態の管理や、又、褥瘡委員長として有効な治療を提供したことがあり、それにより患者のADLが向上したという経験があります。褥瘡治療に関しては、近年優れた褥瘡治療NPWT（局所陰圧閉鎖処置）が評価されており、当院でもこれまでに重ねてきた実績を活かし導入して参りたいと考える次第です。

2 病床を設置する必要性（地域において将来的に必要とされる病床数及び病床機能との関係）

① 病床を設置する必要性

当院が新たに有床診療所を計画しております向中野地区をはじめとした盛岡市盛南地区は、2020年の人口約25千人が2035年には約44千人となることが予想される一方、高齢化も同時に進行するため、人口10万対の受療率で推計した入院患者数は、2020年が1日あたり192人であるのに対し、2035年には1日あたり673人にまで増加する見込みです。

一方で当地区近隣においては、急性期病床数に比べ在宅と介護施設との緊密な連携を行う地域包括ケア病床が盛岡市立病院60床、友愛病院45床のみと少なく、近い将来不足してくるものと予想されます。こういったことから、当地区において地域の実情に根ざした病床申請を行うことといたしました。

(盛岡盛南地域の人口推計)



(高齢者人口推計)



(入院患者推計)



② 地域の中核病院との役割分担について

地域におけるかかりつけ患者の緊急対応については、公的病院はより高度かつ専門医療等の地域住民の生命にかかわる医療機能を維持していく必要があるものと考えます。一方で、当院については、初期救急やプライマリケア、回復期機能などの領域について、在宅療養支援診療所や介護施設と連携しつつ、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最後まで続けることをサポートする地域包括ケアシステムの枠組みにおいて貢献いたしたいと考えております。

具体的には急性期病院から自宅への退院の流れにおいて、当院が栄養指導などを行いつつ円滑に自宅へ退院できるよう在宅復帰を支援いたします。

また、当院かかりつけ患者が体調不良となった場合 急性期病院へすぐ回してしまいますと急性期病院へ負担をかけるだけとなりますので、当院にて責任を持って対応いたしたいと存じます。さらに、在宅患者のレスパイト入院需要にも対応して参る所存です。

③ 看取りについて

看取りについては、乳腺などの当院のかかりつけの患者はもちろんですが、がんの終末期に向かっている患者、がんなどで疼痛コントロールなどの医療サポートが必要ではあるが、急性期治療は実施しないため急性期病院での入院受入が難しい患者を在宅療養支援診療所や介護施設などとも連携し、受入を図って参りたいと考えております。

④ 褥瘡等の専門的治療について

褥瘡等の専門的治療については、当院では有床化と同時に皮膚科も標榜したいと考えております。それにより、地域中核病院では重度褥瘡のみの入院治療が必要な患者の受入が難しいため、当院にて在宅にて治療中の高齢者などを受け入れたいと考えております。高齢化の進行により岩手県内でも今後在宅患者が増加することが想定されていますので、手術を含む褥瘡治療が必要な患者も自然と増加するものと想定されます。連携先は具体的には、県立中央病院や友愛病院、その他在宅療養支援診療所や介護施設などとも連携し、治療を要する患者の入院の受け入れを行っていく所存です。

3 当該診療所が地域で担う役割（提供している医療の内容等）

- ・ かかりつけ患者の増悪時の対応、急性期病院退院患者の在宅復帰支援（栄養指導等）。
- ・ 在宅患者のレスパイト入院需要への対応
- ・ 乳腺がん患者をはじめ、終末期に向かっているがん患者で、疼痛コントロールが必要な患者の看取り。
- ・ 在宅および介護施設などで発生した褥瘡患者の専門的治療とADL改善の支援。
- ・ これまで実施してきた甲状腺疾患の専門的治療および乳腺疾患診療は継続

4 届出病床設置計画（具体的に記載してください）

(1) 届出病床設置に伴う工事等の計画（当てはまるものに○をしてください）

○ 診療所を（ 新築 ・ 増築 ・ 改築 ・ 一部用途変更 ）して届出病床を設置。

資金計画	事業費	建築費	土地購入費	機器購入費	その他（ ）	合計
		415百万円	(借地)	200百万円	-	615百万円
資金計画	財源	自己資金	借入金	補助金	その他(リース)	合計
		15百万円	400百万円		200百万円	615百万円

(2) 診療所の運営計画（雇用計画、診療所運営計画、他の医療機関との連携等）

① 雇用計画

	現在人員数	新規採用数	有床化後人員数
常勤医師	1	2	3
非常勤医師	1	1	2
看護師	4	9	13
看護助手	0	2	2
薬剤師	0	1	1
放射線技師	0	2	2
理学療法士	0	1	1
ソーシャルワーカー	0	1	1
栄養士	0	1	1
事務員	3	2	5
合計	9	22	31

・有床化に伴うスタッフの雇用計画は以下表の通りです。新規採用者は多職種で多人数になるが、主要メンバーはある程度目途がついており、人材紹介会社などから助力を得つつ新規採用を進めていく計画です。

② 診療所運営計画

単位：千円

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目
外来収益	219,326	233,948	233,948	233,948	233,948	233,948	233,948	233,948	233,948	233,948
入院収益	48,205	64,273	64,273	64,273	64,273	64,273	64,273	64,273	64,273	64,273
その他収益	10,915	13,802	13,802	13,802	13,802	13,802	13,802	13,802	13,802	13,802
医療収益	278,446	312,023	312,023	312,023	312,023	312,023	312,023	312,023	312,023	312,023
医療費用	311,518	297,787	297,787	297,787	297,787	298,699	268,295	269,216	270,142	271,073
医療外損益	-9,501	-9,441	-9,299	-9,013	-8,727	-8,442	-8,156	-7,870	-7,585	-7,299
経常利益	-42,573	4,795	4,938	5,223	5,509	4,882	35,573	34,937	34,296	33,651
税引後当期利益	-42,573	4,795	4,938	5,223	5,509	4,882	35,573	34,937	34,296	33,651

借入金	500,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0
収入	780,202	313,991	313,991	313,991	313,991	313,991	313,991	313,991	313,991	313,991
借入返済	0	0	14,286	14,286	14,286	14,286	14,286	14,286	14,286	14,286
支出	726,724	298,195	312,339	312,053	311,767	312,394	281,704	282,340	282,980	283,625
資金収支	53,478	15,795	1,652	1,938	2,223	1,597	32,287	31,651	31,011	30,365
現預金繰越残高	53,478	69,273	70,925	72,863	75,086	76,683	108,970	140,621	171,631	201,997

・申請病床12床については、平均70%程度の稼働を見込んでおります。褥瘡、レスパイト看取りの患者を中心に、地域の在宅支援診療所、介護施設などと連携しつつ集患を図っていく予定です。初年度は初期投資負担などにより赤字が見込まれますが、2年目より黒字転換する見込みです。資金的にも、建築資金のほか、運転資金の借入を行うことで余裕ある運営が行えるものと考えております。

※ 申出に係る当該診療所について、1から4の事項を記載してください。また、本書に書ききれない場合には、別紙を作成して提出することとしても問題ありません。なお、提出いただいた事前計画書は、地域医療構想調整会議及び医療審議会計画部会において、病床設置の説明を行う際に使用にします。